

創立120周年記念式典



生徒会長挨拶



早坂 峻輔(中新田中出身)

「心の琴の弦も張る 春は万朶の花の雲」

創立間もない明治43年に制定されて以来、この校歌が歌い継がれ、古高は今年で創立120周年を迎えました。

蛭雪章を校章とし、「質実剛健」「学問尊重」「自主自律」の三つの校訓に加えて文武両道を旨とし、代々「古高魂」が受け継がれてきました。この「古高魂」を持って卒業された先輩方は、多方面において活躍され、すばらしい功績を残されています。私たちはこの「古高魂」を受け継ぐ、歴史と伝統に満ち溢れた学び舎で、友と切磋琢磨しながら成長できることを、誇りに思います。

今年度は、120周年にふさわしい「古高魂」の躍動を見せています。

古高の一年は、春の築館高校との定期戦から始まります。インフルエンザという新たな脅威にも耐え、今年も勝利を収めることができました。敵地築館高校で三連覇を成し遂げることができたのは、伝統ある応援歌を復活させ皆で一丸となった「古高魂」が各部を後押ししてくれたからだと思えます。来年度は古高で行われる定期戦。“敗北を知らない世代”の私たちには、三連覇に驕り高ぶることのない、謙虚な姿勢が必要です。連覇を積み重ね、未踏の六連覇を後輩に託すことができるように臨んでいきます。

今年は南東北インターハイ、全国高等学校総合文化祭で宮城県が注目を浴びましたが、そこでも古高生が躍動した夏でした。山岳部、ソフトテニス部がインターハイに出場し、全国高等学校総合文化祭には、総合科学部化学班、将棋、合唱、弁論部門に出場。その他各種目や部門において多くの生徒が、実行委員やボランティアとして参加しました。全国の高校生と競いあう中で、心のよりどころになったのは「古高魂」であったことでしょう。今は、各部で新人戦が行われて、陸上部が全国大会に出場、ソフトボール部が全国選抜大会出場を決めるなど1、2年生も活躍しています。

学業の面でも、今春は、32年ぶりに東京大学に現役合格した先輩を始めとして、国公立大学に70名以上合格するなど、素晴らしい進学実績を残しました。今年も先輩方に続こうと一人一人が努力しています。

120年の伝統は、私たちの大きな力になっています。しかしそれに甘んじてはいけません。121年目を任される私たちはどうあるべきか。今の私たちの大きな課題です。よく「ナンバースクールのよう」と言われることがあります。ロールモデルを作って努力することも大切ですが、彼らを最終目標とするならば、彼ら以上の発展はありません。ここ大崎は宮城県の中心に位置し、各地から集う古高生が互いに切磋琢磨し、地元への誇りを形にすることにかけては、我らに勝る者はありません。目標とするものの良い部分を取り入れ、さらに私たちが新たなものを創造することが、古高の未来を創っていくのです。古高生は大きな可能性を秘めています。しかし、自分の力を秘めているままで、100%発揮しようとしている生徒は、残念ながらあまり多くはないように感じます。自分の殻を破り、一歩踏み出して行動し、目標に向かって挑戦し続けることこそが、今後の古高に必要であると、生徒会長になった今痛感しています。全校生徒が一歩ずつ前進すれば、大きな一歩になると私は信じています。大崎の偉人吉野作造氏も「人は境遇に置かれれば無限の進歩が遂げられる」という言葉を遺しています。私たちの手で古高の未来を切り拓いていこうではありませんか。

古川高校が今日を迎えることができたのは、地域の方々や先生方、そして伝統を築いてくださった諸先輩方をはじめとする多くの方々のご支援ご協力があったからだと思います。ありがとうございます。この120周年を節目として、古高生一人一人が、古き良き伝統を受け継ぎながらも、新たな「古高魂」を胸に未来への一歩を踏み出し、故郷の発展に寄与する人間に成長していくことを誓い、生徒代表の挨拶といたします。



生徒全員による校歌の四部合唱

みやぎ総文2017合唱部門

私が総文祭を経て一番印象に残っているのは、人との繋がりです。当初の練習会では緊張や不安もありましたが、徐々に合唱の完成度と共に団結力も高まってきました。本番では目標通り悔いのない演奏ができ、また全国の合唱を愛する高校生との全員合唱では、音楽を通じて一体となれる喜びを実感しました。他校の複数名の友人との交流や応援を下された方々の存在も含め、大変貴重で有意義な体験となりました。

由利 瑞姫(古川南中校出身)



文芸部東北大会

山形紀行

佐々木 太慈(涌谷中出身)

10月19、20日の二日間、山形で開催された北海道、東北文芸大会に参加してきた。初日の文学研修では立石寺、山寺を見学した。登山はいささか骨が折れたが、山頂からの景色は実に壮観で目を見張るほどだった。

2日目の交流会では、東北各地から訪れた文芸部員たちとともに、それぞれの詠んだ俳句の合評会が行われた。どの句も素晴らしい出来栄で、「私も負けていられないな」と強く感じた。実に得るものの多かった二日間であった。



陸上東北大会優勝

課題とこれからの目標

奥山 小冬(中新田中出身)

東北大会とU18日本陸上を終えて、自分の課題点がたくさん見えてきました。今回は、東北大会で優勝、ユースで6位入賞と結果を残すことができましたが、私の目標は来年の三重インターハイで日本一になることなので、今後とも気を抜かず練習に励んでいきたいと思ひます。そして、いつも指導してくれている先生、支えてくれている親に必ず恩返ししたいです。



1年合唱コンクール

合唱コンクールは、1学年で行いました。私たちのクラスは、課題曲の校歌と自由曲「青葉の唄」を歌いました。私は指揮者を務めました。初めは上手いきませんでした。しかし、クラスの皆で問題点を出し合いどうすればよくなるのか試行錯誤していくうちに、目指す合唱の形に近づいていきました。本番は緊張しましたが、全員が楽しく歌えたと思ひますし、クラスの絆が深まりました。

合唱は相手を思いやる心が必要で、皆で取り組むからこそ感動が生まれるのだと改めて感じることができました。

本多 海真(岩出山中出身)



体育祭

「体育祭を終えて」

伊藤翼(中新田中出身)

今回、私は体育祭実行委員長としてとにかく皆が楽しめるような体育祭にしようと心がけていました。特に開会式・閉会式では少しおふざけがすぎるところもありました。しかし、やはりこれこそが真の古高生の姿ではないかと思ひます。今年の体育祭は例年よりもいっそう楽しく、全校生徒が正々堂々戦う環境を作ることができたのではないかと自負しています。来年もさらに進化を遂げた体育祭にしてほしいと思ひます。



古高祭

「古高祭を終えて」

豊田春喜(古川南中出身)

古高祭。それすなわち、古高生のオアシスである。日々の勉強と部活の両立に疲れた古高生が我を忘れ、楽しむことのみを目的とする魔物に化ける期間のことである。今年も数多くの部活が模擬店を出店し、ステージ発表では個性豊かな魔物たちの発表のおかげで大いに盛り上がった。しかし古高生の力はこんなものではない。これからの古高生ならばもっとすばらしいものを作り上げることができると信じている。期待している。

